

平成29年6月6日

農作物生育・技術情報2号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水稻生育状況と技術対策（6月1日現在）中苗

移植後、比較的好天が続き活着は順調でしたが、6月に入り低温が続いています。天候の回復とともに浅水にし、初期生育を促しましょう。

稲わらをすき込んだ水田は、水温の上昇により「ワキ」の発生が心配されます。6月中旬を目処に軽い中干しや水の入れ替えなどを行いましょう。

品種名	生育状況			技術対策
	項目	29年	平年	
ななつぼし	草丈	15.3cm	15.3cm	<ul style="list-style-type: none"> ・活着後、低温や強風時は7～10cm程度のやや深水にするが、気温が高く日照のある時は、茎数確保のために3～4cmの浅水に管理する。 ・水田の水温目標 25℃以上
	葉数	4.2葉	4.2葉	
	茎数	91本/㎡	93本/㎡	
	活着期	5/30	5/30	
	遅速日数	±0	—	

〈除草剤は適期に散布する〉

移植作業後ノビエやホタルイ等の雑草が目立ってきます。雑草の葉数がすすむと除草剤の効きが悪くなるので、早めに処理しましょう。除草効果を高めるために散布時は完全に止め水とし、散布後4～5日間は田面を露出させず湛水を保つようにしてください。

2 牧草生育状況（6月1日現在） ～ 牧草の生育は平年並 ～

チモシーの生育は平年並、オーチャードグラスは出穂始です。収穫時は「刈り高10cm程度の高刈り」を推奨しています。高刈りにより、土砂の混入防止や二番草の再生促進及び増収が期待できます。

作物名	生育状況			遅速日数	摘 要 (作業期節・特記事項)
	項目	29年	平年		
牧草(チモシー)	草丈(1番草)	59.6cm	60.0cm	±0	生育は平年並です

3 サイレージ用とうもろこし生育状況（6月1日現在）

作物名	生育状況			遅速日数	摘 要 (作業期節・特記事項)
		29年	平年		
100日クラス	草丈	4.9cm	4.5cm	±0	生育は平年並です
	葉数	1.4枚	1.1枚		
	出芽期	5/31	5/31		

雑草対策：茎葉処理の場合、薬剤ごとに使用時期が異なります。効果を高めるためほ場を観察し適期に散布しましょう。

4 主要野菜の生育状況と技術対策

(1) 各作物とも育苗中及び定植直後は、夜間の低温対策と日中の高温対策に注意した温度管理に努めてください。

(2) 農薬散布の際は飛散防止に万全な対策を行きましょう。

作物名	生育状況	技術対策
トマト	<ul style="list-style-type: none"> 3月定植は1～2段目の収穫中、7～8段花房が開花。4月定植は5～6段花房が開花。5月定植は3～4段花房が開花。 3～5段花房にがく枯れ。 4～5段花房で葉先枯れ症状が発生している。 灰色かび病、褐色根腐れ病、半身萎凋病、アザミウマ類の発生が一部ほ場で見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3～4月定植は着果数の増加に伴いかん水・追肥量を増加し、果実肥大を促進させる。 草勢に応じ1回の追肥量は窒素成分で1～2Kg/10aを目安とする。窒素施用量を多くするとすじ腐れ果や尻腐れ果の発生を助長するので注意する。 カリ欠による葉先枯れ症状はカリの追肥を行う。 曇雨天により、灰色かび病が発生しやすくなっているで、換気や送風による湿度管理を行う。 病気果等は早めに摘果する。
ハウス軟白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 1月定植収穫中。 アザミウマ類、ハモグリバエ類、タマネギバエ、小菌核腐敗病の発生が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ハウス周辺の除草を徹底する。 残渣は速やかに処分する。 粘着版の設置で早期の防除を心がける。
ハウス立茎アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> 立茎移行期。 ジユウシツビガハムシが発生している。 	
かぼちゃ	<ul style="list-style-type: none"> 5月中旬から定植が開始され順調に生育している。 	<ul style="list-style-type: none"> 5℃未満の低温が予想される場合、パオパオ等の被覆資材を二重にする。 曇天・日照不足等では、病害の発生が懸念されるため、早期予防に努める。

5 畑作の技術対策

(1) 秋まき小麦 ～赤かび病防除～

防除時期を迎えています。出穂状況を確認しましょう。

赤かび病に最も感染しやすい時期は開花始です。この時期と1週間後の2回の防除が基本となります。

開花始に降雨が予想される場合は、事前に散布を行うなど防除適期を逃さないように注意しましょう。

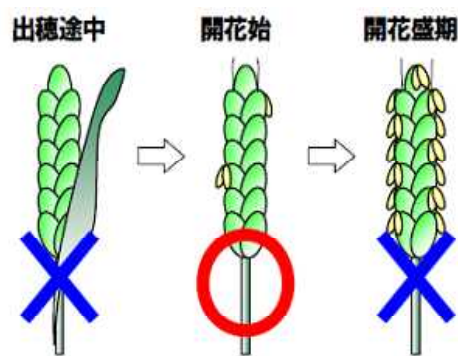


図1 赤かび病1回目の防除適期

(2) 大豆 ～わい化病対策～

大豆の種子塗沫処理に殺虫剤を使用していない場合は、初生葉展開時にアブラムシの防除を行きましょう。

(3) ばれいしょ

萌芽揃いの1週間後に中耕兼ねて半培土、その1週間後に本培土を実施しましょう。本培土が遅れると根やストロンの切断につながるので注意しましょう。

◎農薬の使用に際しては使用方法と使用上の注意事項を必ず確認しましょう。

◎農作業の合間には必ず休息をとり、疲労回復を図りましょう。

